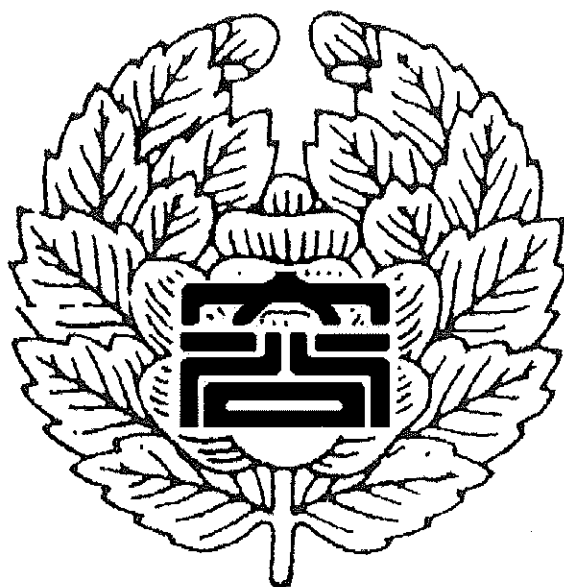


2021年度北海道大谷学園連合会
高等学校相互評価報告書

対象校 札幌大谷高等学校



評価校 帯广大谷高等学校

(評価日 2020年3月10日)

2022年3月31日

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

主 査	中西 猛雄 (北海道教区大谷学園委員会委員)
主査代理	山田 寿雄 (北海道教区大谷学園委員会委員)
委 員	金石 潤導 (所長推薦・南第3組開正寺)
委 員	丸山 政秀 (函館大谷高等学校長)
委 員	佐藤 健一 (函館大谷高等学校 事務長)
委 員	西道 力 (札幌大谷高等学校 副校長)
委 員	鈴木 慎介 (札幌大谷高等学校 教頭)
委 員	小野 茂 (帯广大谷高等学校 教頭)
委 員	坪坂 智光 (帯广大谷高等学校 事務長)
委 員	吉田 幸麿 (稚内大谷高等学校長)
委 員	木村 泰優 (稚内大谷高等学校 教頭)

札幌大谷高等学校の概要

設 置 者	学校法人 札幌大谷学園
理事長名	加藤 久豊
校 長 名	梅津 義信
開設年月日	1906年(明治39年) 4月
所 在 地	札幌市東区北16条東9丁目1番1号
設置学科	普通科、音楽科、美術科
入学定員	普通科250名、音楽科30名、美術科40名
教職員数	(総数)167名 (常勤)89名 (非常勤)78名

※教職員数は札幌大谷中学校を含む

調査結果

I 建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標

教育基本法、学校教育並びに私立学校法に従い、かつ、親鸞聖人が開顕された本願念仏の大道による仏法と人を重んずる宗教教育を基調とし、自他尊重の社会人、国際人の養成及び幼児教育を行い心身豊かな人材を育成することを目的とする等、建学の精神・教育理念が明確に確立している。この建学の精神により導き出された教育目標や学校目標があり、これを具現化するための様々な取り組みが行われていることが評価できる。

また、建学の精神や教育理念については、大きな見直しとはならないが、教育目標や学校目標については、毎年検証と見直しを検討している。このように、過去に決まったことに執着せず、常に今の時代にあった教育活動を実践していることとも評価できる。

II 分掌

教務については、各教科ともに詳細なシラバスを作成し実行している。総合的（探究的）な学習の時間においても、個性探究、キャリア教育等、有効に活用されている。その他、漢検、英検、GTEC、語検、ワープロ検定等についても積極的に指導している。

学力重点コースに、教科クラブ生主体のアスリート S クラスを設置し、文武両道の方針のもと、学習とクラブを両立できるカリキュラムを作り、個々の生徒の目的に応じたきめ細かな指導ができています。

生徒指導については、定例の学年会や生徒指導委員会で、こまめな情報共有を行い、生徒個人や集団の些細な変化を発見できるようにし、問題行動の未然防止に努めている。

また、最近の傾向として、学校不適應の生徒が多い傾向とのことであるが、生徒指導部、養護教諭、学年団、場合によってはカウンセラーを通じて状況の把握や共有を行っている。担任だけでなく、全体で生徒を多角的に見て対応している。

進路指導については、全教員に対し、ほぼ毎日 Gmail で大学入試に関する情報を発信し、進路指導力の向上を図っている。また、高校教員対象オンライン説明会に積極的に参加している。コロナ感染症対策のため、一斉指導型の進路指導はできていないが、Google classroom で毎日大学入試情報を発信している。生徒全員が進路資料を見ることができ環境をつくることで、進路への関心を高めている。

以上のように、教務、生活、進路等において、教職員が年度当初に設けた明確な方針のもと、しっかりと教育活動に取り組んでいることが評価できる。

Ⅲ 管理運営

理事会のガバナンス体制を整備し、今後、重要課題の一つにある高大連携を強化し、内部進学生の増加を図っていくとのことで成果を期待したい。また、本校（帯広大谷高等学校）においても、帯広大谷短期大学への内部進学生確保の問題があることから参考にしていきたい。

コロナ禍により、職員会議を開催できないため、学校運営に関わるすべての事項について、管理職会議で検討し、方針を部長主任会議に提案している。そして、部長主任がリーダーシップを発揮できるように促し、全教職員にPDF資料で周知徹底している。

以上のように、方針検討・決定から周知までスムーズに進んでいることが評価できる。

その他、報告書の中で、部長主任会議が学校運営の決定の場となっているという記載があった。トップである校長が学校運営の最終決定である学校が多い中、少々気になる点である。

Ⅳ 改革・改善

全教職員が自己点検・評価に関わり、その結果を次年度に活かしている。

また、指導力の向上を目的に内部研修の他、外部研修会への積極的な参加等、教職員の意識改革を目指した様々な取り組みが行われている。高校のみならず中高大の連携強化で学園のブランド力と教育レベルの向上を図っている。

以上のように、「大谷に入学して良かったと思わせるよう、生徒一人一人を大切にされた教育活動をしていくことが何よりも重要である。」という校長の方針に基づき、教職員全体で改革・改善に取り組んでいることが評価できる。

以上